

平成 28 年度 第 2 回江別市社会教育委員の会議 会議録

1 開催日時

平成 29 年 2 月 17 日(金) 午後 3 時 00 分～午後 4 時 00 分

江別市教育庁舎 大会議室

2 出席者

○社会教育委員 9 名

佐藤レイ子委員、高木玲子委員、伊藤穎毅委員、杉山健委員、石川奈穂江委員、
辻麻紀委員、藤田昌之委員、神保順子委員、井上大樹委員

(欠席：諏江康夫委員)

○教育委員会 渡部教育部長

生涯学習課 佐々木課長、丸山生涯学習係長、横山主査(文化振興担当)、
井上青少年係長、横山主事

スポーツ課 三浦課長、星野スポーツ係長

情報図書館 山岸館長

郷土資料館 櫛田館長、兼平主幹

3 開催結果

(1) 開 会

(2) 教育部長あいさつ

(3) 委員長あいさつ

(4) 平成 29 年度社会教育予算(案)に係る主要事業について(各課から説明)

(質疑等)

<質問>

14 ページの「セラミックアートセンター企画展開催事業」の予算が 420 万円減額
となっている理由を教えてください。

<事務局>

例年、本州の美術館などから美術品を借りて企画展を開催していたが、平成 29 年度
については、そのような展示会を行わずに、この先数年間の企画展の計画準備の期間の
年度とした。他の美術館等との連絡調整、企画立案のための調査費のみを計上している
ため、48 万 3 千円という予算になっている。

<質問>

11 ページの「子どものための読書環境整備事業」について、学校図書館の非常勤職

員が配置されており、巡回司書3名と支援司書1名の体制で行われてきているが、全校をこの人数で網羅するとなると、2年に1度くらいしか各校に回って来ない。希望として「せめて毎年」という声がいろいろな所から上がってきているので、今後について何か考えがあれば聞かせてほしい。

<事務局>

平成29年度からは少しやり方を変えて、もう少し流動的に各学校の状況に合わせて対応できるような形にして学校数を増やせないか検討している。既に各学校に来年度の希望調査を送って回答してもらっている。それらを集計中であり、全体調整の中であるべく学校に合った形で数をできれば増やしていきたい。

<質問>

同じく11ページの「スポーツ合宿誘致推進事業」は、昨年度からスタートした事業ということであるが、実績はあったのか。

<事務局>

今現在で6団体実際に来ている。来月末にもう1団体来る予定で、平成28年度としては7団体の実績となる。

<質問>

総合計画に基づいたもので大幅には動かないと思うが、見直しをかけて廃止した事業はあったのか。

<事務局>

見直しをかけてリニューアルしたものが、4ページの「家庭教育事業」である。

<意見>

P T A連合会の補助金を少し増やしてもらえたらありがたい。いまP T A連合会ではアウトメディアを推進しており、平成30年度には石狩管内のP T Aの大会が江別市で行われるということもあり、江別市は管内の他の市町村に比べてP T A活動を活発に行っている。母親として家庭教育の問題を取り上げたり、母親自身が学習する機会の提供、意見交流などを行っているが、いま子どもが少なくなってきた、P T Aを決めるのも非常に大変な状態である。これからはP T Aが率先して地域と学校と協力して子どもたちを育てていくという方向で、いろいろな活動をさせてもらえたらと思っている。

<意見>

先程の図書館司書の非常勤職員報酬について、学校の図書館の蔵書数も年々充実しており、司書が来てくれると非常にありがたい。平成29年度は工夫してという話もあったので、期待したい。

<質問>

14ページの「陶芸文化普及振興事業」は、セラミックアートセンターの中だけの予算か。セラミックアートセンターは江別の外れの方で、なかなか足が伸びない。予算も少なくないので、1年間で何回くらい催しがあって参加人数は延べ何人くらいあるのか。

<事務局>

資料に記載されている事業は、セラミックアートセンターで実施されているものである。展示会としては「北の生活デザイン展」「道作陶家による展覧会」「工房利用者の展覧会」などを行っている。教室関係では、陶芸教室は年度内で5コースを予定していて、陶芸体験は21コース、イベントや単発の事業は24回ほど計画している。広く陶芸に興味を持つ方に対して技能向上を図っていただけるように努めている。

<質問>

参加者は講習料を負担しているのか。

<事務局>

講座の参加にあたっては材料費などを負担していただいている。

<質問>

記載されている経費は、講師の謝礼や材料費になるのか。

<事務局>

陶芸教室は主に当館の非常勤職員が教えているので、講師の報酬という点では無いが、外部の方に来てもらう場合もあり、そのときは謝礼を支払っている。

<質問>

展示発表の会場として借りるときに費用はかかるのか。

<事務局>

市または教育委員会が主催するものについては無料で行うが、それ以外の団体からは通常1日1万3千円程度の使用料が発生している。ただ減免規程があり、それに則った減免をすることも可能である。

<質問>

年間どの位の人数が展示しているのか。

<事務局>

総体で年間2万4千人程度である。

<質問>

3ページの「青少年ふれあい交流促進事業」は、今回「発表の場拡大事業」と統合した形で予算が増やされているが、地域の人達と何かをして子どものふれあい交流を進めて行こうという方向性で統合したと理解してよいか。統合してこの事業に力を入れるもうひとつの試みがあれば説明してほしい。

<事務局>

「青少年ふれあい交流促進事業」は、学校単位で地域と一緒に実施していくもので、「発表の場拡大事業」は文化芸術活動をしている方々が発表する際の会場使用料を助成していたものである。どちらも性質としては事業費に対して補助するというものなので、「発表の場拡大事業」を発表するのみではなく、地域や学校の方々と連携する中で発表するという方向に持って行きたい、統合するものである。地域の芸術文化の広がりとして、発表の場を地域の方や学生に見せることで、より広まりが出るのではないかとということで、補助要綱等も改正する中で統合していこうと考えている。

<意見>

今後、事業を見直していくときに、一つ一つの事業を検討することも勿論大事であるが、効果を組み合わせていくという発想も大事である。積極的な見直しという点も含めて2つの視点を是非考えていただきたい。

1つは地域づくり、地方創生。これから地域再生に有効な手法等が考えられる。

もうひとつはコミュニティ・スクール。表面的な読み方では学校教育力の向上ということで、そこに地域の教育力が付随しているように見えるが、最近学力向上対策などでも明らかになったとおり、ひとつの課題に対して学校と家庭と地域が具体的に協力できないと、子どもの学習成果は出てこない。学校中心の発想のように見えて、実は地域をまるごと子どもを育てていくような有機的な取り組みが求められている。

<意見>

コミュニティ・スクールについて、国が示しているのは学校を拠点とした地域のコミュニティづくりである。私は江別市のコミュニティ・スクール検討委員会に所属していて、まずは江別型コミュニティ・スクールの体制づくりということで4月からスタートしようとしている。その中で学校と地域の協働を考えたときに難しいのは、いままで社会教育は学校教育を補完するようなイメージがとても強い。協働というのはどちらも主になるという考え方をすれば、江別型コミュニティ・スクールはとりあえず学校を中心に進むが、子どもたちを中心に据えて、その中でこれまでの学校の役割、PTAや学校支援地域本部といったものを総合的に考えながら、社会教育が主体となって関わりを持つためには何ができるのか。これが今後江別市としては検討していかなければならない視点かと。

<意見>

先程の図書館司書の巡回の件で、PTAの母親方が情報図書館の司書から整備の仕方などを教わったことが子どもたちの本を直すときに非常に役に立ったという話を聞いた。各学校をなかなか巡回できないということであれば、学校の図書ボランティアに関わる

母親向けの講習会を開いてもよいのではないか。

<質問>

えぼあホールが20周年ということで、記念事業が予算化されているが、何か具体的なことが決まっているのであれば聞かせてほしい。

<事務局>

えべつ楽友協会と協力し、著名な音楽家を招へいして演奏会を行なう予定である。

20周年ということで、指定管理者である江別振興公社でも何らかのイベントをしたいと考えているし、えべつ楽友協会は自分達も20周年になるということで相談されていた。それ以外にも、開設当時に演劇の関係で館をよく使っていたという方々から演劇をやりたいという申し出もある。いろいろな方々に愛されているホールなので、20周年を期に、もっといろんな方に使っていただけるようなPRも兼ねていきたいと考えている。

以上

(5) 第59回全国社会教育研究大会北海道大会について（生涯学習係長から説明）

資料3をご覧ください。

資料最初の開催概要にあるとおり、全国社会教育研究大会が、今年の9月11日から13日の3日間、札幌コンベンションセンターを会場に開催される。内容については、資料に添付している大会のチラシに記載のとおりである。北海道内での開催であり、札幌市が会場となっているので、ぜひ多くの委員に参加していただきたいと考えている。

<委員長>

全道で役割分担をしている。石狩管内の役割は全体の進行ということになっていて、手伝うことがいろいろとあるのではないかと思う。日程的にまだ詰まっていないようなので、決まり次第連絡する。

以上

(6) その他（佐藤委員長から）

平成29年度は第8期社会教育総合計画の中間年にあたるということで、評価について委員の方々と話したときに、現場を見に行つてはどうかという話があり、その辺を話し合つて評価につなげたいと思うのでよろしくお願ひしたい。

以上

(7) 閉 会

午後 4 時 00 分終了